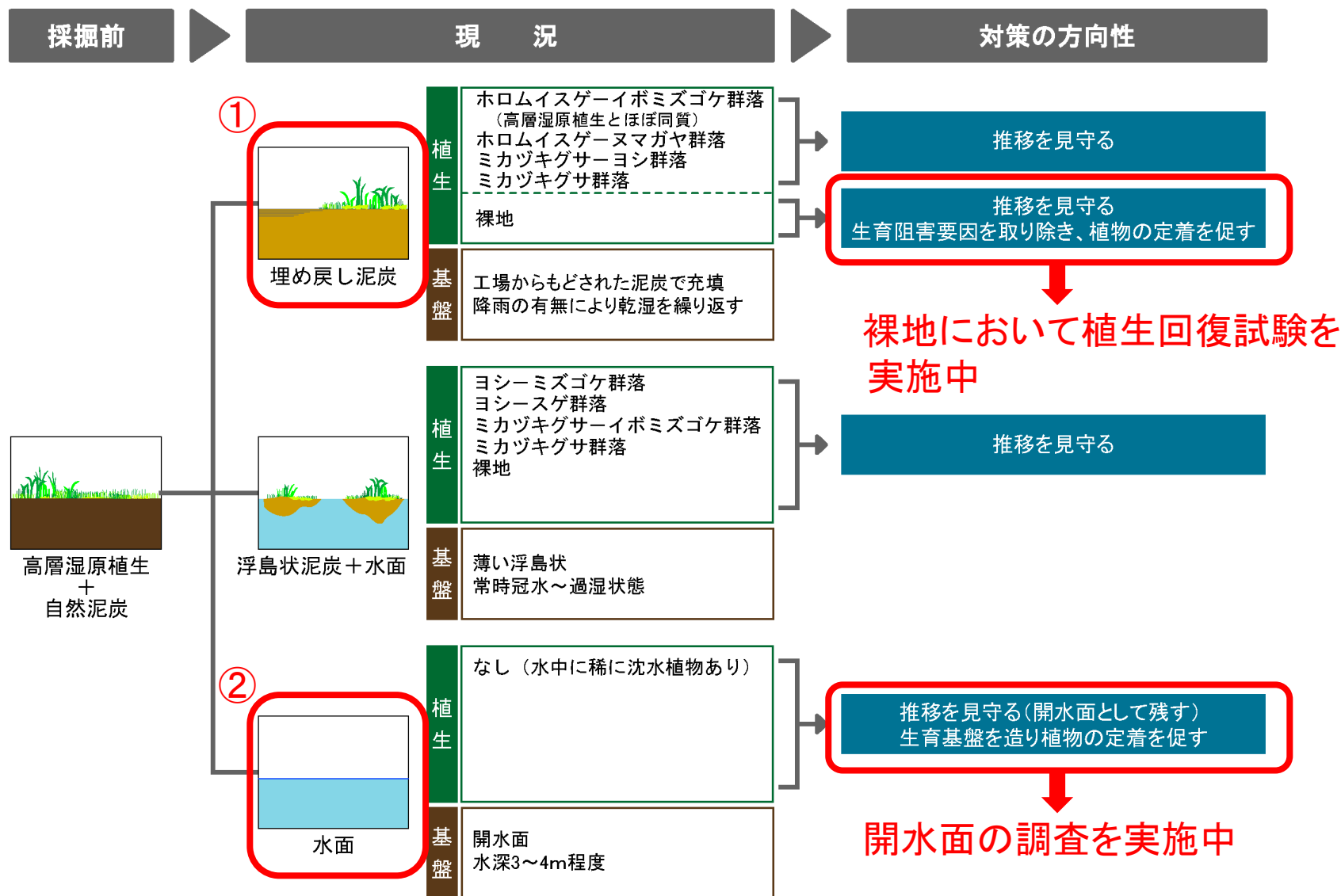




# 泥炭採掘跡地の再生

# 泥炭採掘跡地における自然再生事業の方向性



# 植生回復試験の実施位置

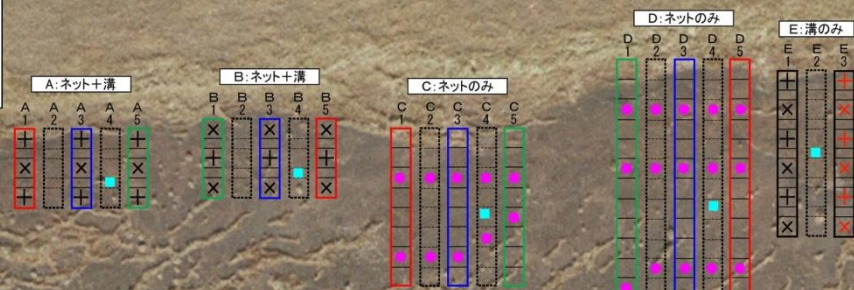
サロベツ湿原センター

## 植生回復試験地の設置

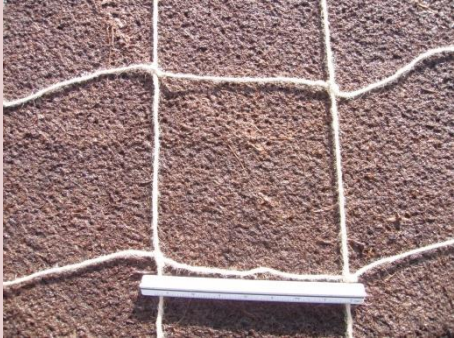





※平成23年10月26日～10月28日に施工

- 凡例
- <ネット>
- 目合い 15cm
  - 目合い 3~5cm
  - 目合い 2cm
  - 対照区(無処理)
- <溝>
- + X 幅20cm、深さ20cm
  - + X 幅20cm、深さ10cm
- <モニタリング地点>
- 地下水位
  - 地表変動
- 植物と土壌水分は各コドラートで実施

## 試験区画の配置



# 植生回復試験の概要

ネット種類	素材概要	施工写真	
①目合い 15cm	天然繊維ジュート 100% 生分解性		
②目合い 3~5cm	天然繊維ヤシ 100% 生分解性		
③目合い 2cm	天然繊維ジュート 100% 生分解性		

# 植生回復の状況

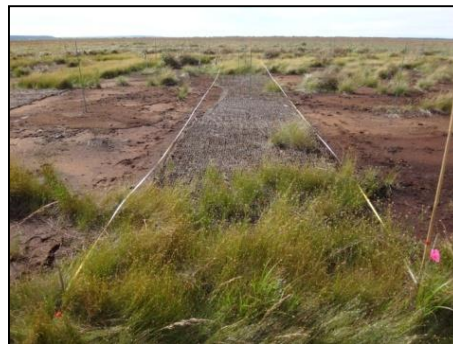
ネット目合い 3~5cm(D3区)



2011年10月27日



2013年7月20日



2015年9月11日

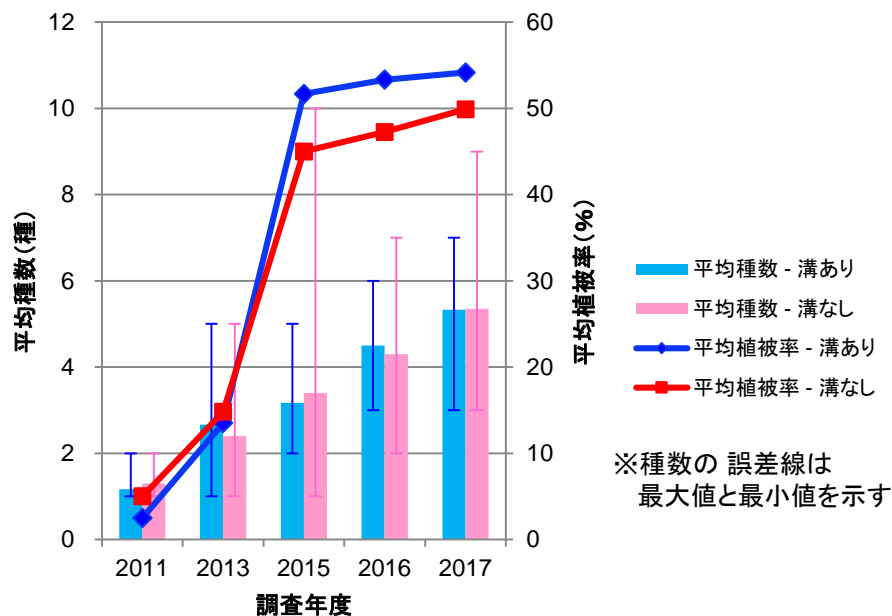
ネット目合い 2cm(C1区)



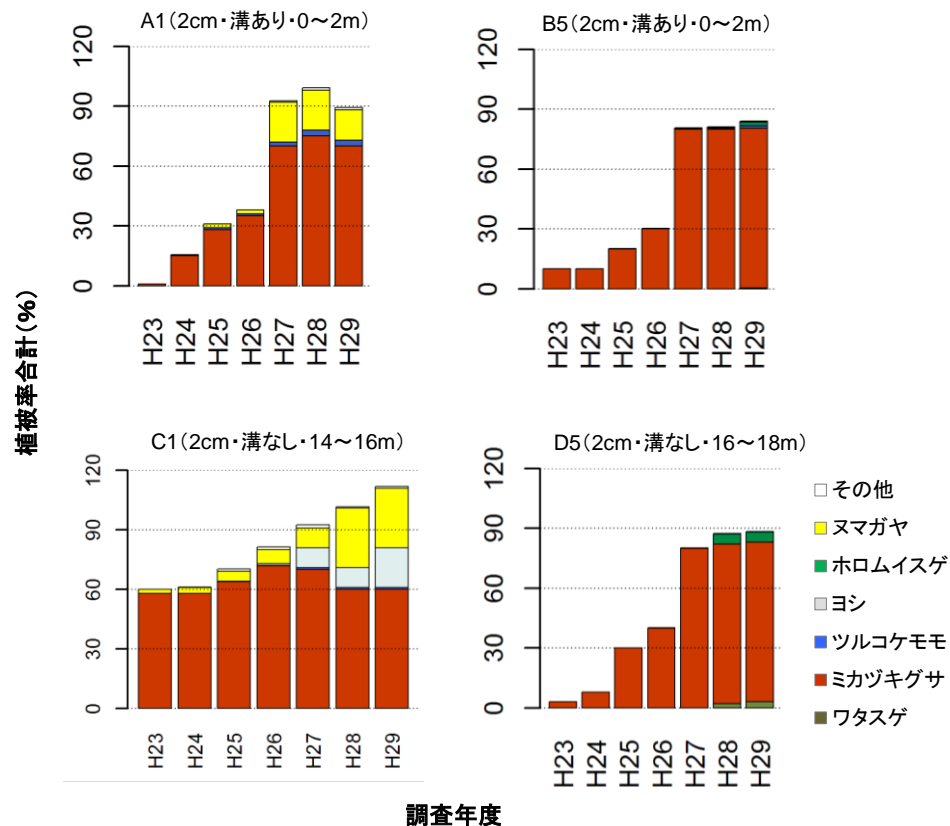
植生の回復が早い



# 植生コドラート「ネット目合い2cm」の調査結果



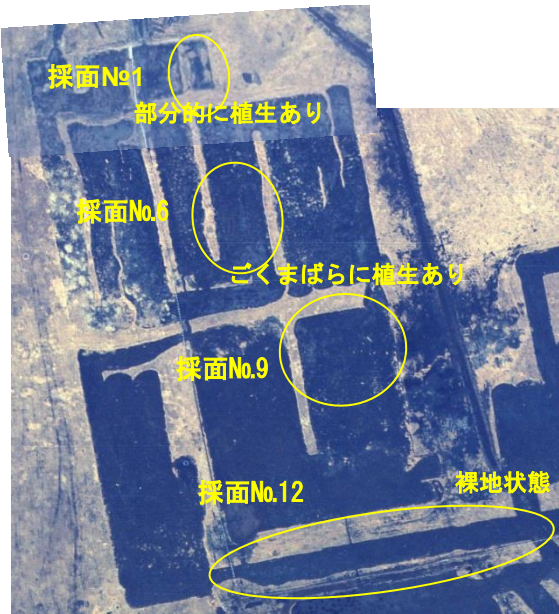
植生回復試験地における種数・植被率の推移  
(「ネット目合い2cm」のコドラートのみ)



- ・種数・植被率ともに順調に回復が進行。
- ・全体的にミカヅキグサの高い植被率が維持されていたが、生育種が増加し、種組成が多様化する傾向。
- ・ミカヅキグサ以外の植物の中では、ヌマガヤ、ホロムイスゲ、ヨシ、ワタスゲ等の植被率が増加。

# 裸地における植生の定着

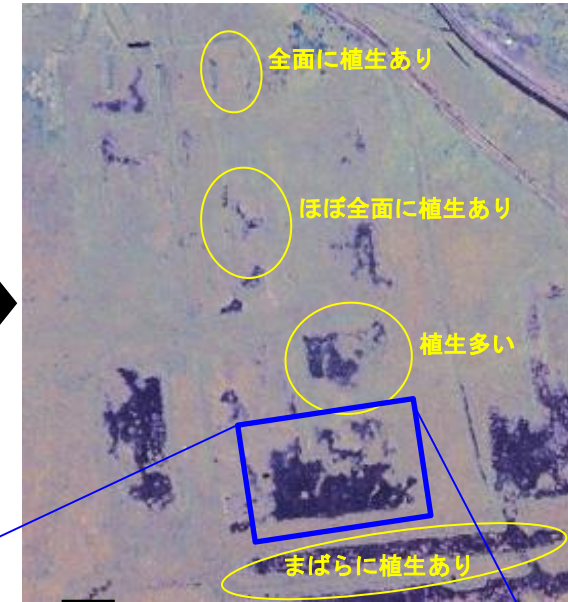
徐々に植生が定着し、裸地は縮小傾向。  
裸地の規模は小さくなってきている。



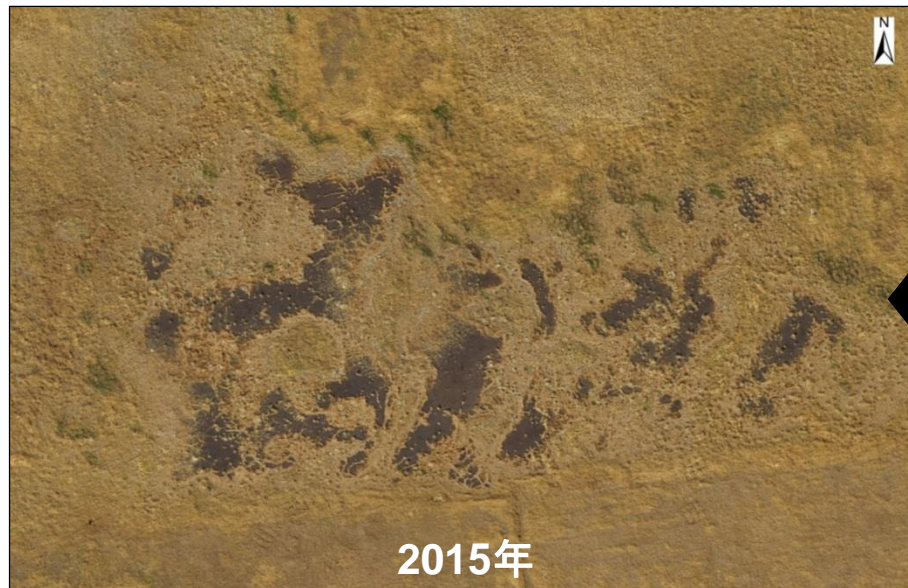
1977年



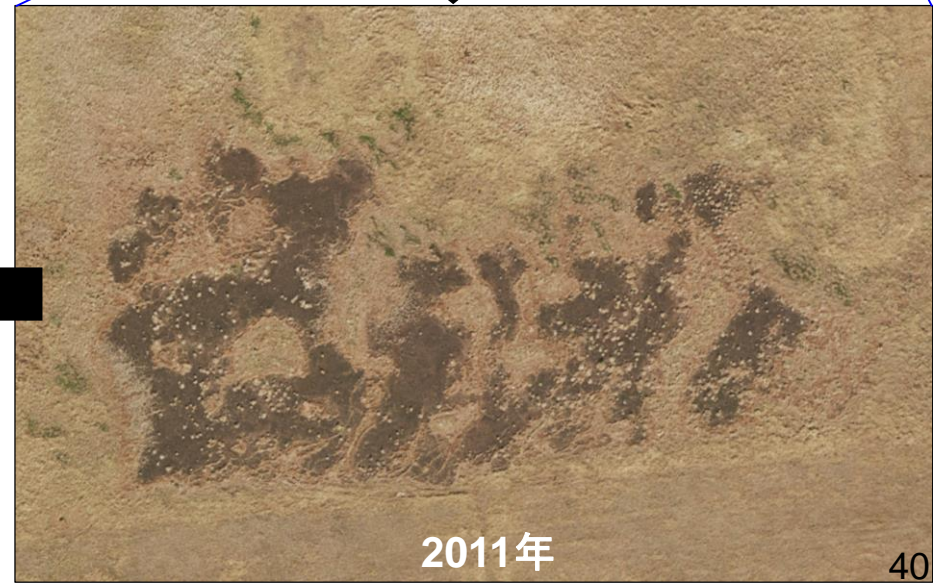
1988年



2000年



2015年



2011年

# 泥炭採掘跡地 ～ 裸地における対策のまとめ

自然に回復している場所

徐々に植物が定着



植生遷移が順調に進行するかどうか、今後の推移を見守る

裸地が分布している場所

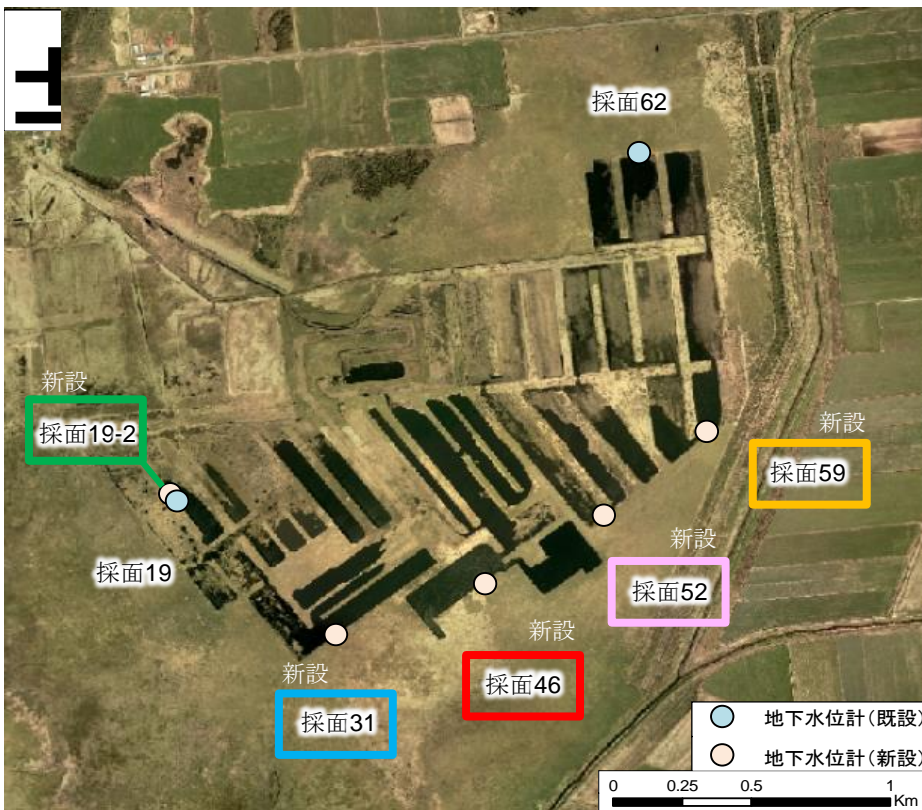
「目合い2cm」のネットを敷設する方策を採用



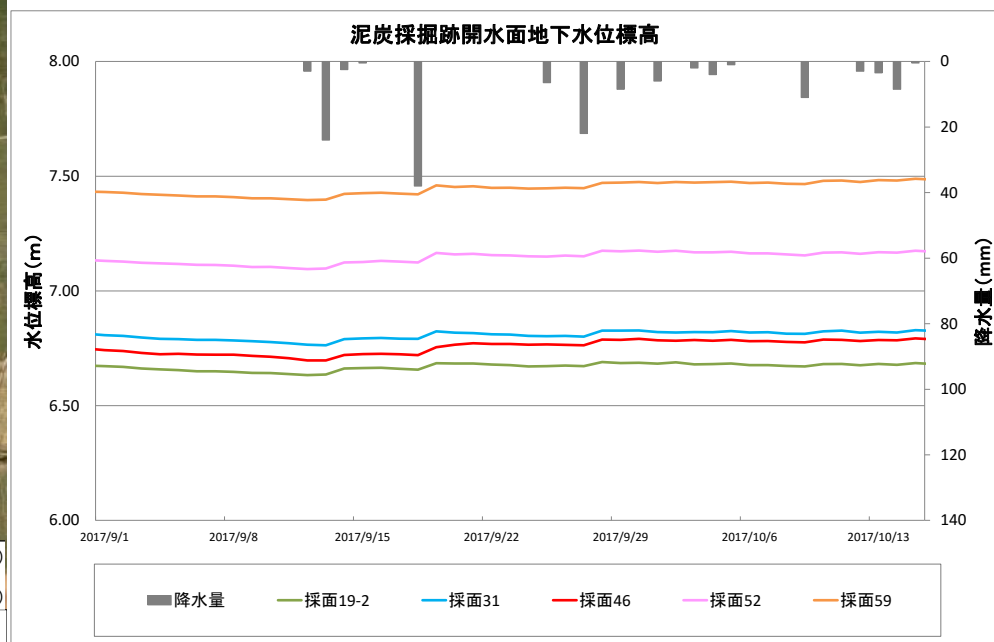
- ・ 裸地が小規模になってきており、今後はボランティア等による植生回復対策を主体に実施予定。
- ・ 中長期的な視点でモニタリングを実施し、植生遷移の状態を確認。



# 泥炭採掘跡地開水面における水面水位調査結果



本年度、採面19-2、31、46、52、59の5地点を新設し、水面水位のモニタリング開始（開水面）。



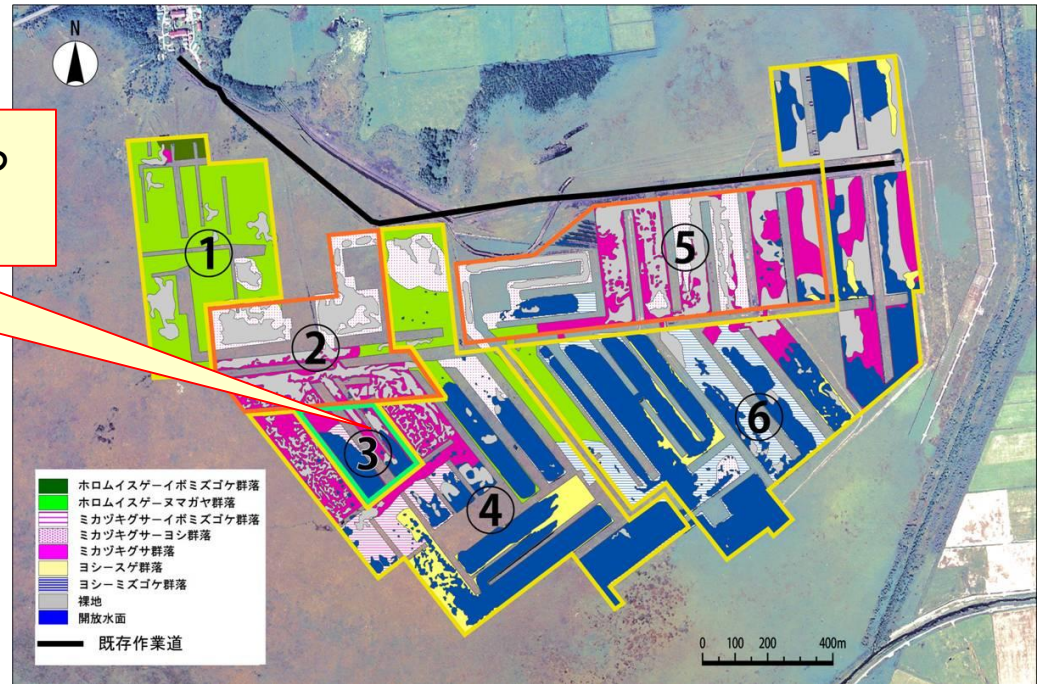
低い ← (地盤標高) → 高い

項目	採面19-2	採面32	採面46	採面52	採面59
隣接地の地盤面標高(m)	6.71	6.83	6.98	7.96	8.85
H29最高水位(m)	6.69	6.83	6.79	7.18	7.49
H29平均水位(m)	6.67	6.81	6.76	7.15	7.45
H29最低水位(m)	6.63	6.76	6.70	7.10	7.40
地盤面標高と水位の差(m)	0.02~0.08	0~0.07	0.19~0.28	0.78~0.86	1.36~1.45

小さい ← (地盤と水位の差) → 大きい  
 湿潤 ← → 乾燥

# 泥炭採掘跡地におけるゾーニング

③は、実際の対策が難しいことから  
植生の遷移を見守ることとする



区分	周囲の植生	修復の方向性(現行計画)		今後の方向性		
①	高層湿原植生	推移を見守る	陸化した採掘箇所には分布している植生の遷移を見守る。	同左(変更なし)		
②		修復	裸地状態が続いている採掘箇所の植物の定着を促す。	同左(変更なし)		
③		修復	開水面に泥炭ブロック等を活用して生育基盤を形成し、植物の定着を促す。	推移を見守る	植生の遷移を見守る	
④		推移を見守る	陸化した採掘箇所は、植生の遷移を見守る。		同左(変更なし)	
			開水面は、オオヒシクイの利用を考慮して人為的な操作は行わずに自然の推移を見守る。			
⑤		低層湿原植生 (ササ混生タイプ)	修復	裸地状態が続いている採掘箇所の植物の定着を促す。	同左(変更なし)	
⑥	推移を見守る	陸化した採掘箇所では、植生の遷移を見守る。		同左(変更なし)		
		開水面は、オオヒシクイの利用を考慮して現況を維持する。				

# 事業進捗状況

	裸地状態の工場から戻された泥炭が厚く堆積した箇所	開水面	採掘面全体
2010年			植生区分図の作成
2011年	事前調査試験計画の検討 ↓ 植生回復試験地の施工 ↓ 植物調査(秋季) 土壌水分・地下水位調査		
2012年	↓ 植物調査(夏季) 土壌水分・地下水位調査 地表面の変動状況調査		
2013年	↓ 植物調査(夏季) 土壌水分・地下水位調査 地表面の変動状況調査	事前調査 ↓ 試験計画の検討 ↓ 生育基盤調査	
2014年	↓ 植物調査(夏季) 土壌水分・地下水位調査 地表面の変動状況調査		
2015年	↓ 植物調査(夏季) 土壌水分・地下水位調査 地表面の変動状況調査 ↓ 中間評価① ※モニタリング調査対象の見直し	↓ オオヒシクイ調査	
2016年	↓ 植物調査 地下水位調査		
2017年	↓ 植物調査 地下水位調査	↓ 水面水位調査	

# 今後の計画

